

9. 信仰とキリストの血

ペテロの手紙#9

<https://ichthys.com/Pet9.htm>

ロバート・D・ルギンビル博士著

第一ペテロ 1:1-2 の改訂訳：

イエス・キリストの使徒であるペテロから、父なる神の予知により、聖霊の聖別を受け、イエス・キリストの血の注ぎかけのもとに従順な者となるために、選ばれた人々、すなわちポントス、ガラテヤ、カッパドキア、アジア、ビテニヤの各地に散らされ追放された人たちへ。あなたがたに恵みと平和が増し加わるように！

復習： 前回は、ペテロが語った「選ばれた寄留者」としての私たちの身分についての三つの説明を学びました。世の中の目から見れば、私たちは取るに足らない存在であり、何の価値も持たないように思われるかもしれませんが。けれども、私たちは神によって特別に選ばれ、御子イエス・キリストへの信仰によって神の家族の一員とされたのです。さらに、この「選び(すなわち神の家族への選抜)」の働きには、三位一体の神のそれぞれの人格(位格)が関わっておられます。

- ・ 御父は私たちの選びを計画されました(予知を通して:つまり、私たちが御子を信じる意志をあらかじめ知っておられたのです)。
- ・ 聖霊は私たちの選びを実行されました(聖化を通して:すなわち、私たちをこの世のすべての不敬虔なものから基本的に分離し、神に仕えるために私たちを聖別されます)
- ・ 御子は、私たちの選びの代価を払ってくださいました(贖いを通して:つまり、私たちのために十字架上で死んでくださった尊い代価によって、私たちを罪の奴隷状態から買い取ってくださいました)。

解説： これで、2 節の最後の句——「イエス・キリストの血の注ぎかけのもとに従順な者となるために選ばれた」——の解説に入ります。英語の for(日本語訳では「～のために」)にあたるギリシヤ語の前置詞 *eis*(エイス) は、ここでは「私たちの**選び**の目的がイエス・キリストというお方に向けられている」ことを示しています。ペテロは、私たちが神の家族に入れられたのは、主イエス・キリストが十字架で成し遂げてくださった御業に基づいているのだと教えています。イエス・キリストは、信仰の**対象**(私たちが信じる

お方)であり、その意味で「イエス・キリストの血による従順のために選ばれた」とあります。つまり、私たちは主を信じるように選ばれたのです。救いの代価を支払われたお方(私たちの救いを可能にしてくださったお方)でもあります。その意味で「イエス・キリストの血の注ぎのために選ばれた」とあります。すなわち、私たちが主を信じる時、罪の奴隷状態からあがなわれるのです。したがって、「従順のために」とは、私たちがイエス・キリストとその十字架の御業を信じる信仰を指し、「注ぎのために」とは、私たちが救い主としてキリストを受け入れるときに、罪が「洗い清められる」こと——つまりあがないを意味しています。

時の始まる前から、神である御父は、私たちをサタンの闇の王国から御自身の光の王国へと選び出すご計画を立てておられました(コロサイ1章13節)。そして、聖霊は、私たちがイエス・キリストを信じたその人生の瞬間に、この変化(移し替え)を実行してくださいました。しかし、私たちの救いの代価を実際に支払われたのは、歴史の決定的な瞬間——主イエス・キリストが私たちのために十字架にかかれたときでした(ヘブル9章26節後半)。

救い: 救いとは、解放を意味します。つまり、私たちは神によって恐ろしい運命から救い出され、安全な場所へと導かれたということです。では、私たちは何から救われたのでしょうか?—それは、死後の神の裁きと、火の池という恐ろしい滅びからです(ヘブル9章27節、黙示録20章11-15節、[14-15](#))。では、私たちは何のために救われたのでしょうか?—それは、復活と天における永遠の幸福のためです(第二コリント5章1-10節)。

この救い(解放)は、決して「無料」ではなかったことを、私たちはいつも忘れてはいけません。誰かが、その代価を支払わなければならなかったのです。最初の人間アダムから、私たちは皆、罪深い性質を受け継ぎました(ローマ5章12-14節)。パウロはこれを「自分のうちに宿る罪」と呼んでいます(ローマ7章20節)。その結果、私たちはみな罪を犯す者となりました(ローマ3章23節)(ローマ3章23節)。神は完全に聖なる方であり(あらゆる悪から完全に離れておられる)、また完全に義なる方です(いかなる悪も見逃すことができない方です:詩篇7篇9-11節)。ですから、私たち人間には深刻な問題があります。—罪深い私たちが、どうすれば完全な神をなだめることができるのでしょうか?—また、そんな状態で、神と永遠に共に生きることができるのでしょうか?(ヘブル10章30-31節)神から離れたままでは、私たちのする「善い行い」もまた、罪によって汚れたものにすぎません(ローマ4章2節、エペソ2章8-9節、第二テモテ1章9節、テトス3章5節、参照:申命記9章5-6節、イザヤ64章6節)。そしてさらに深刻なのは、私たちすべてが逃れられない運命にあります。——「人間には、一度

死ぬことが定められている」([ヘブル 9 章 27 節](#))からです。たとえ私たちが何とかして神に償いをしようとしても、神の介入(救い)なしには、私たちは死ぬほかないのです。

ですから、イエス・キリストを受け入れること、そしてイエスが私たちに代わって死んで下さったこと、その結果として父なる神に私たちが受け入れられるということを受け入れるという、イエス・キリストを信じる信仰によってのみ(私たちの心と意志による単純な行為であって、功績などはまったくなく)なのです。ですから、2 節の「イエス・キリストの血…のもとに従順な者となるために…選ばれた」という表現は、キリストが私たちの罪を負われた十字架上の御業を私たちの側が受け入れることを指しているのです([イザヤ 53 章 1-12 節](#))。また、「イエス・キリストの血の注ぎのために…選ばれた」という表現は、私たちが信じたときに受ける罪の赦しを指しています。神がすべての人に求める従順とは、何よりもまず、御子イエス・キリストを信じ、彼が自分たちのために捧げた犠牲を受け入れることです。注ぎ(贖いによる罪の赦し)は、この聖句では信仰と一つに結びついています。キリストを信じる信仰がなければ、罪の赦しはありませんが、キリストを信じる信仰があれば、罪の赦しは直ちにもたらされるのです。

将来、私たちは次の三つの重要な教理について詳しく学ぶ機会を持つこととなります。**贖い(あがない)**：キリストの十字架のわざが**罪に向けられた側面**です。つまり、キリストが私たちが罪の奴隷状態から買い戻された(贖われた)ということです。**和解(わかい)**：キリストの十字架のわざが**人間に向けられた側面**です。十字架の死を通して、私たちは**神の敵から神の友へと変えられた**のです。**償い(つぐない; propitiation)**：キリストの十字架のわざが神の御父に向けられた側面です。キリストがご自身をいけにえとしてささげたことにより、神はその犠牲を受け入れられ、すべての時代の全人類の罪の代価が支払われたのです。さて、ここでペテロが2 節で用いた「血の注ぎかけ(sprinkling)」という言葉に含まれる「描写」について、一言触れておきたいと思います。

私たちは将来、**贖い**(キリストの、罪に対しての十字架上の御業：キリストは私たちが罪の奴隷状態から救い出してくださった)、**和解**(キリストの、人間に対しての十字架上の御業：キリストは私たちが神の敵から神の友へと変えてくださった)、そして**償い**(キリストの、父なる神に対しての十字架上の御業：キリストの犠牲は神に受け入れられ、人類のすべての罪を永遠に贖った)の教義を検討する機会があるでしょう。しかし、ここ、[2 節](#)でペテロが用いた「血を振りかける」という言葉に含まれる「描写」について、一言述べておく必要があります。

血を振りかける：旧約聖書に見られる血の注ぎかけの象徴は、神がイスラエルの民に

ご自身について教えるために制定された儀式から取られています。モーセが「契約の書」(すなわち、[出エジプト記 20-23 章](#)にまとめられたモーセの律法)をすべて読み終えた後、彼は和解のいけにえ(平和のいけにえ)をささげ、その血をすべて集めました。そしてモーセはその血を民全体に注ぎかけながらこう言いました、「見よ、これは契約の血である」。この血は、旧約のいけにえ全体に共通しているように、暴力的な死を象徴していました。また、「契約の血」という表現は、他の者(いけにえ)の死によって、イスラエルの民が神と特別な契約関係に入ったことを意味していました。モーセが実際にその血を民に注ぎかけた行為は、まさにその事実を目に見える形で、そして衝撃的な形で示すためのものでした。現代の私たちには、これは非常に生々しく、衝撃的に感じられるかもしれませんが、しかし、それこそが本来の意図だったのです。キリストの十字架での犠牲は、私たちが決して完全には理解しきれないほどの大いなる犠牲でした。私たちはその犠牲に何も貢献していません。いわば、キリストの血の「しぶき」を受けただけなのです。私たちは、ただ信仰によってキリストを受け入れ、その私たちのための犠牲のわざを信じることによって、その死の恵みの効果を受けるのです。

キリストの血について： 一方で、「キリストの血」とは象徴的な意味であって、文字通りの血液を指しているわけではありません。モーセは、将来現れるメシアの苦しみと犠牲を象徴するために、実際の血を用いました。しかし主イエス・キリストは、あなたと私の救いのために十字架にかかり、私たちの罪のために死ぬことによって、その現実のわざを成し遂げられたのです。イエスはその働きを終えた後、「息を引き取り、息を吐き出して」死なれました([ルカ 23 章 46 節](#))。つまり、イエスは出血多量で死なれたのではなく([ヨハネ 19 章 33-35 節](#))、自らのいのちを差し出して死なれたのです。ですから、私たちは注意深く焦点を当てる必要があります。私たちが救ったのは、キリストが十字架の上で私たちの罪の身代わりとして苦しみ、犠牲となったことであり、旧約時代のその犠牲を前もって象徴していた儀式的な「血」そのものではありません。したがって、聖書が「キリストの血によって救われた」と語るとき、それはキリストが私たちのためにささげられた尊い犠牲、すなわち十字架での死を意味しており、物理的な血液のことではないのです。

まとめ：

ペテロの最初の文(1章2節)は、私たちが神の家族として選ばれた(選び/選定された)ことについて、三つの側面から説明しています。

- 父なる神: 救いを計画された(予定・予知)
- 聖霊: その救いを現実のものとして実現された(聖別)

- 御子イエス・キリスト:その救いの代価を支払い、私たちが信仰によって救いを受けられるようにされた(贖い)

このような三位一体による「救いの第一段階(救済)」の構図は、実は信者の地上での生活(第二段階)にも当てはまります。

- 父なる神のご計画は、私たちの地上での歩みを支えます。
- イエス・キリストのわざは、私たちが罪を告白するとき、今もなおその罪をきよめ続けます。
- 聖霊は、私たちが霊的に成長していくことを助け、導いてくださいます。

これらについては、次回の学びでさらに詳しく見ていくことにします。

[ペテロ#10:霊的成長入門] へ。